

★高円寺図書館は、今年開館50周年です！★

高円寺図書館

2018年2月号



高円寺駅 1952(昭和27)年 [杉並区役所広報課提供]

杉並区立高円寺図書館

〒166-0003

東京都杉並区高円寺南2-36-25

電話 03-3316-2421

《最近買った本等から》

書名	編著者等	出版者等
子ども虐待対応における サイエンス・オブ・セーフティ・アプローチ実践ガイド	菱川愛他	明石書店
子どものための里親委託・養子縁組の支援	宮島清他	明石書店
児童相談所改革と協働の道	藤林武史	明石書店
標本BOOK	さとうかよこ	日東書院本社
恐竜のおりがみ	川畑文昭他	誠文堂新光社
漆芸の見かた	小林真理	誠文堂新光社
消えゆく太平洋戦争の軌跡		山川出版社
思い出のブルートレイン		鉄道ジャーナル社
反教養の理論	K・リースマン	法政大学出版局
角倉素庵	林屋辰三郎	吉川弘文館
昭和レトロ自販機マニアックス	越野弘之	洋泉社
怖くて眠れなくなる植物学	稲垣栄洋	PHP エディターズ・グループ
保育園を呼ぶ声が聞こえる	猪熊弘子他	太田出版
絵本むかし話ですよ	五味太郎	方丈社

錆・腐食・防食のすべてがわかる事典	藤井哲雄	ナツメ社
町を歩いて本のなかへ	南陀楼綾繁	原書房
トコトンやさしい3Dものづくりの本	柳生浄勲他	日刊工業新聞社
ホーキング、ブラックホールを語る	S・ホーキング	早川書房
徹底カラー図解自動車のしくみ	野崎博路	マイナビ出版
江戸の美術大図鑑	狩野博幸他	河出書房新社
カラスと人の巣づくり協定	後藤三千代	築地書館
過去の戦争とスポーツシリーズ ①スポーツ団体への統制と報国団体化 ②スポーツ物資の規制と軍部への供出 ③国民の体力と余暇を国家管理に	廣畑成志	本の泉社

<2月の行事・展示> ※展示されている本は借りられます。

◎特別行事・展示

名称・テーマ等	場所・日程等	内 容
「高円寺今昔」	6日(火)～階段踊り場	※P9参照。
高円寺図書館寄席 当日、直接会場へ。	11日(日)午後2～4時 1階講座室 30名	杉並江戸落語研究会による落語会です。

講演会 「高円純情商店街 の頃」 申込順	24日(土)午後2~4時 1階講座室 30名	高円寺出身のねじめ 正一氏に講話して頂 きます。
あかちゃんと一緒に 楽しむわらべう たの会 申込:14日(水)より電 話または高円寺図書 館窓口にて受付	28日(水) 午前11~11時40分 1階講座室 対象:2歳程度までの お子さんとその保護 者 20組	わらべうたを歌った り、歌いながら、みん なで一緒に遊びます。
ねじめ正一DVD 上映会 当日、直接会場へ。	3月4日(日) 午後2~3時30分 1階講座室 30名	杉並区文化交流課が 制作したDVDを上 映します。



杉並区

未来へ
伝える
メッセージ

杉並ゆかりの文化人、
表現の軌跡

詩人・小説家
ねじめ正一

Vol.5

DVD VIDEO

◎その他の展示

名称・テーマ等	場所・日程等	内 容
ねじめ正一展	2階一般展示 コーナー	詩人・作家のねじめ正一の詩集・ 小説・絵本等を展示しています。
恋するキモチ	2階 YA コー ナー	本からひも解く恋心に焦点をあて て集めてみました。
ことば	2階児童絵本 コーナー	しりとり・だじゃれ等、言葉の面 白さを味わえる本を展示していま す。
スポーツ・ オリンピック	2階児童読物 コーナー	今月は韓国で冬季オリンピックが 開催されます。オリンピックやス ポーツに関する本を集めました。
育父部(いくち ぶ)おすすめの えほん	2階児童コー ナー入口	子どもに読み聞かせをしているグ ループのお父さんが、おすすめす る絵本を展示しています。

【特集 ねじめ正一(詩人・作家)】

1948年6月16日、高円寺生。

本姓禰寝。父は、俳人のねじめ正也。

杉並区立杉並第四小学校、杉並区立高円寺中学、日大二高卒業。青山学院大学中退。

1981年、詩集『ふ』で現代詩の登竜門である第31回H氏賞受賞。

1989年、自らの少年時代をもとにした小説処女作『高円寺純情商店街』(新潮社)で第101回直木賞受賞。

このほか、小説『荒地の恋』(文藝春秋)で第3回中央公論文芸賞、『商人(あきんど)』(集英社)で第三回舟橋聖一文学賞を受賞。

子どもの本も多数著し、2004年、『まいごのことり』(佼成出版社)でひろすけ童話賞受賞。

父から引き継いだ「ねじめ民芸店」を阿佐ヶ谷パールセンター商店街で営み、暮らしに根差しながら朗読や創作活動を積極的に行っている。

新刊では、『むーさんの自転車』(中央公論新社)、『ナックルな三人』(文藝春秋)。



【詩集・小説等】

○『ねじめ正一詩集』	思潮社
○『高円寺純情商店街 本日開店』	新潮社
○『高円寺純情商店街 哀惜篇』	新潮社
○『熊谷突撃商店』	文藝春秋
○『熊谷キヨ子最後の旅』	文藝春秋
○『そこまでやらなくてもいいのに物語』	角川書店
○『恋愛さがし』	講談社
○『赤チンの町』	新潮社

○『昼間のパパと夜明けの息子』	日本経済新聞社
○『こちら駅前探偵局』	読売新聞社
○『おしっこと神様』	光文社
○『眼鏡屋直次郎』	集英社
○『出もどり家族』	光文社
○『万引き恋愛記』	集英社
○『長嶋少年』	文藝春秋
○『認知の母にキッスされ』	中央公論新社

【エッセイ等】

○『ねじめの歯ざしり』	リポート
○『ご近所パラダイス』	読売新聞社
○『今日もトットと陽はのぼる』	PHP研究所
○『「ことば」を生きる』	講談社
○『ニヒャクロクが上がらない』	思潮社
○『風の棲む町』	日本放送出版協会
○『言葉の力を贈りたい』	日本放送出版協会
○『我、食に本気なり』	小学館
○『ぼくらの言葉塾』	岩波書店
○『おふくろ八十六、おれ還暦』	中央公論新社

【児童書・絵本等】

○『きょうめんななまけもの』	教育画劇
○『あーちゃん』	理論社
○『かあさんになったあーちゃん』	偕成社
○『がっこうのうた』	偕成社
○『ぼくのおばあちゃんはキックボクサー』	くもん出版
○『ぼくらのウソテレビ』	くもん出版
○『徳田さんちはおばけの一家』	講談社

最近の新聞記事から

『朝日新聞夕刊 2018年1月6日』の「癒しに感謝の「銭湯図解」という記事で、イラストレーター・塩谷歩波氏が紹介され、あわせて高円寺の「小杉湯」が取り上げられました。

また、「広報すぎなみ1月15日号」で「小杉湯」が特集されました。現在はシャワーを含めれば、毎日風呂に入るのが当たり前のようですが、この習慣は家庭に「内風呂」が備わるようになった高度経済成長期以降、せいぜい前回の東京オリンピックの頃からのものに過ぎません。それまでの長い歴史の間、「銭湯」は庶民の生活に大きな役割をはたしてきました。

今回は「銭湯」・「風呂」をキーワードに、歴史や風俗、エッセイ、日本を含めた世界の沐浴文化等に触れられている本をご紹介します。

興味・関心のある方は、ぜひご一読ください。

【高円寺図書館所蔵資料から】

- ・『銭湯』 町田忍 ミネルヴァ書房
- ・『京の銭湯 本日あります』 コトコト
- ・『銭湯の女神』 星野博美 文藝春秋
- ・『湯屋番五十年銭湯その世界』 星野剛 草隆社
- ・『杉並のお風呂屋さん』 杉並区立郷土博物館
- ・『風呂とペチカ』 リピンスカヤ／編 群像社
- ・『お風呂の歴史』 ドミニック・ラティ 白水社
- ・『風呂と日本人』 筒井功 文藝春秋
- ・『入浴の事典』 阿岸祐幸／編 東京堂出版
- ・『「入浴」 はだかの風俗史』 花咲一男 講談社
- ・『風呂とエクスタシー』 吉田集而 平凡社
- ・『東京湯巡り、徘徊酒』 島本慶 講談社
- ・『だから混浴はやめられない』 山崎まゆみ 新潮社
- ・『温泉と日本人』 八岩まどか 青弓社
- ・『不潔の歴史』 キャスリン・アシェンバーグ 原書房

- ・『あゆみ 杉並浴場組合八十周年記念誌』 杉並浴場組合
- ・『韓国温泉物語 日朝沐浴文化の源流をたどって』

竹国友康 岩波書店

- ・『東京味わい銭湯と近くの旨い店』 小野員裕 インフォレスト

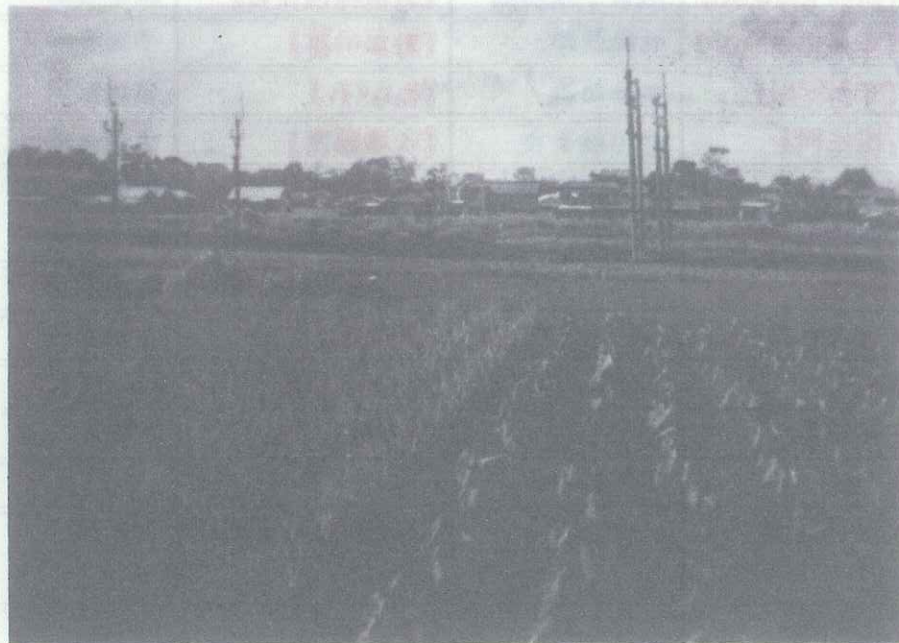
【お知らせ】

写真パネル展「高円寺今昔」を開催します

会期：2月6日(火)～4月1日(日)

杉並区広報課提供の大正時代から昭和にかけての高円寺周辺の写真18点を階段踊り場で展示します。併せて現在の写真も一部展示します。

1964(昭和39)年東京オリンピックや高度経済成長を経て、この近辺の街並や自然も著しい変貌を遂げていますが、かつての風景に思いをはせていただけたら幸いです。



高円寺駅から南方を望む 1924(大正13)年

こんな本があるのをご存じですか？

昨年が生誕150年だった夏目漱石の作品『こゝろ』は、1914(大正3)年岩波書店より刊行されましたが、初版本を複製したものが高円寺図書館にあります。これは駒場の日本近代文学館が出版(ほるぷ出版発売・絶版)した「新選名著複製全集近代文学館」シリーズの一冊です。

シリーズには、二葉亭四迷が坪内逍遙の本名・坪内雄蔵で出した『浮雲』Ⅰ・Ⅱや杉並に在住した歌人・與謝野晶子が旧姓「鳳」で出した『みだれ髪』などがあります。

装幀や口絵から当時の世相を伺うこともできる資料ですので、ぜひ手にとってご覧ください。

◎このシリーズの作品(下3行は、杉並在住など関連ある人の作品)

作品名	著者	作品名	著者
『おめでたき人』	武者小路実篤	『新篇路傍の石』	山本有三
『生れ出る悩み』	有島武郎	『野菊の墓』	伊藤左千夫
『すみだ川』	永井荷風	『あらくれ』	徳田秋声
『羅生門』	芥川龍之介	『大津順吉』	志賀直哉
『武蔵野』	国木田独步	『殉情詩集』	佐藤春夫
『小説尾花集』	幸田露伴	『田舎教師』	田山花袋
『青猫』	萩原朔太郎	『赤光』	斎藤茂吉
『道程』	高村光太郎	『若菜集』	島崎藤村
『雁』	森鷗外(林太郎)	『一握の砂』	石川啄木
『海潮音』	上田敏	『刺青』	谷崎潤一郎
『土』	長塚節		
『赤い蠟燭と人魚』	小川未明	『抒情曲集 思ひ出』	北原白秋
『測量船』	三好達治	『風立ちぬ』	堀辰雄
『蟹工船』	小林多喜二	『たけくらべ』	樋口一葉

【表紙の写真から】

高円寺駅は、1922(大正11)年に阿佐ヶ谷駅と同時に開業しました。

もともと駅を造る計画はありませんでしたが、地元の住民の熱心な誘致運動が功を奏したものです。

しかし、1945(昭和20)年の空襲で駅舎が焼失。

応急復旧した駅舎が全面改築されたのは、1952(昭和27)年のことでした。

1966(同41)年に高架複々線化が完了すると、中央・総武線(各駅停車)が中野から荻窪まで延長され、地下鉄東西線の乗り入れも開始されて、現在に至っています。

【参照】『杉並区史探訪』 森泰樹 杉並郷土史会



現在のJR高円寺駅北口付近

2月

<高円寺図書館カレンダー>

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
<u>4</u>	⑤ 休館日	6	7 お話会	8	9	10
<u>11</u> 寄席	<u>12</u>	13	14 赤ちゃんタイム お話会	⑮ 休館日	16	17
<u>18</u>	19	20	21 お話会	22	23	24 講演会
<u>25</u>	26	27	28 わらべうたの会 お話会			

○…休館日 下線…午後5時閉館

【開館・貸出時間】 月曜～土曜…午前9時～午後8時

日曜・祝日…午前9時～午後5時

【休館日】 (祝日と重なったときは直後の平日が休館日となります。)

第1月曜日…高円寺は休館ですが、中央他区内6館は開館しています。

第3木曜日…全館休館日です。

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
<u>4</u>	⑤	6	7	8	9	10
<u>11</u>	<u>12</u>	<u>13</u>	<u>14</u>	⑮	16	17
<u>18</u>	<u>19</u>	<u>20</u>	<u>21</u>	<u>22</u>	<u>23</u>	<u>24</u>
<u>25</u>	<u>26</u>	<u>27</u>	<u>28</u>	<u>29</u>	<u>30</u>	<u>31</u>